



発行 因島高校を支援する会 会長 竹中啓修 事務局: 因島高校 P T A ☎08452-4-1281 題字 竹中啓修

因島市名誉市民 宮地茂 福山大学名誉総長に聞く

2月19日(木)、福山大学名誉総長 宮地茂さんを、宮地康福因島市教育長、竹中啓修因島高校を支援する会会長はじめ、支援する会編集スタッフが、福山大学を訪問し、お話をお聞きしました。



宮地茂 福山大学名誉総長

宮地康福因島市教育長

このたび、因島市名誉市民に選ばれ、おめでとうございます。また、大浜町には、水族館や研究施設をつくっていただき、ありがとうございます。教育委員会としては、福山大学の先生方のご協力・お知恵をいただきながら立派な施設を充分活用させてほしいと思います。よろしくお願ひ致します。

竹中啓修因島高校を支援する会会長

福山大学におかれましては、因島高校からの入学生が大変お世話になっております。指定校枠につきましても、大変配慮いただきありがとうございます。

― 昨年の記念講演会は盛況でした。 ―

日頃の活動を因島のみなさんに知ってもらおうと、9月13、20、27日の3回にわたって、「目指せ！明日の養殖漁業」と題して公開授業しました。たくさんの方の参加ありがとうございました。今後も、気楽に聞けるような講演や実習を計画したいと思います。

― 大浜町にある海洋研究所は、どういう目的で作られたのですか。 ―

正式には「内海生物資源研究所」といいますが、平成元年に工学部生命系学科の教

| 略歴 | 昭和 | 平成 | 現在 |
|--|----------|----|----|
| 誕生(89才) | 3. 5. 15 | | |
| 広島高等師範学校を経て広島文理科大学史学科卒業 | 16. 3 | | |
| 高等文官試験合格 | 17. 7 | | |
| 文部省入省 (官房長、社会教育局長、大学学術局長、初等中等教育局長など歴任) | 17. 9 | | |
| 文部省退職 | 46. 6 | | |
| 学校法人福山大学設立。学校法人福山大学理事長 | 50. 1 | | |
| 福山大学学長 | 50. 4 | | |
| 勲二等瑞宝章受賞 | 62. 11 | | |
| 福山平成大学設立 | 6. 4 | | |
| 学校法人福山大学総長 | 6. 5 | | |
| 学校法人福山大学名誉総長 | 14. 1 | | |
| 福山市名誉市民 | 15. 8 | | |
| 因島市名誉市民 | 15. 11 | | |

― 現在、どんな研究をしていますか。 ―

① 養殖を行なう上で、環境の変化に強く、病気に強く、飼いやすい品種を作り出す選抜育種をより効率的に行なう方法を開発しています。

― 水族館は評判いいです。 ―

昨年RCCラジオで大浜町の子どもが、「お客さんを連れて行きたいところは？」と聞かれて、「福山大学の水族館です。」と答えていたというのを聞いて、地元で親しまれているのをうれしく思います。

― 学生さんや先生はたくさんいますか。 ―

3年前、生命工学部が設立され、海洋生物工学部の研究室が設置されました。教授2名、助教1名ほか、数名の講師陣で、教育と研究にあっています。

― 現在、40名近くの学部学生、大学院生が日夜研究に励んでいます。今年4月からはさらに人数も増え、ますますにぎやかになります。 ―

研究所では、宿泊施設(約50名収容)が併設されており、学生と教員のコミュニケーションの場として利用されています。

― 因島で活用できることや、活用して貰いたいことがありますか。 ―

この研究所では希望されれば、高校生の体験学習や、クラブ活動、教員の実習を受け入れることが出来ます。

また、高校では新しいカリキュラムの一環としてさまざまな分野の専門家による授業を企画し、経験豊富な講師を求められています。このように要望に応じて、福山大学の教授陣が高校を訪れ、それぞれの専門に関する話題をわかりやすく講義する訪問授業も実施しています。

地域の高校と手を携えて、次代の若者の教育を行なうことは、私達の望みです。

小さい頃は家が貧しかったので、麦とイモを食べていました。母親が「コメの食べられる人間になれ。」という励ましを胸にして努力しました。貧しいことは、体験しないとわからない。母は「貧乏をかけてすまない。」といつも話していた。しかし、金持ちになれとは言わなかった。

親孝行については、親の言うことをよくきくこと、病気をしない、親孝行の最たる物は、親に心配をかけないと言っています。親と漁にでて、小学校を休むことも多くなりましたが、当時は、親の手伝いをするのが、親孝行だと言われた時代でした。

福山を選んだ理由。自分の生まれた地域には、大学がない。場所の選定については、郷里の因島に大学をつくり、因島の子らにすばらしい大学生活を味わわせてやりたいと考えました。ただし、因島では、学生募集に無理があると思いい、近い所ということで、因島や備後地区の子どものことも視野に入れ、福山に決めました。

福山大学ができたとき、感動は、ありましたか。福山大学が出来たとき、母が、ゾウキンを10枚縫って、「恥ずかしいけど、私がしてやれることはこれだけだ。」と、母が、ゾウキンを10枚縫って、「恥ずかしいけど、私がしてやれることはこれだけだ。」と、母が、ゾウキンを10枚縫って、「恥ずかしいけど、私がしてやれることはこれだけだ。」

因島の子どもたちに一言。因島高校の子どもたちが、喜んで福山大学に来てくれるかと思つたが、勘違いだった。どうせ親元を離れるなら、福山大学より遠くを選ばす。福山大学より遠くを選ばす。福山大学より遠くを選ばす。福山大学より遠くを選ばす。

宮地康福因島市教育長。今日は、お忙しいにもかかわらず、ありがとうございます。胸に、教育に携わってきたいと思つています。名譽総長も今後とも元気で活躍ください。



因島高校(旧因島高校・旧因島北高校含む)からの福山大学への進学実績

| | |
|-------|------|
| 志願者総数 | 448人 |
| 入学者総数 | 160人 |

(16年内定を含む)

就職内定者に テーブルマナー講習会

2月2日、ナティーク城山にて、因島高校就職内定者テーブルマナー講習会が行われ、就職希望者20名が、参加しました。



出席参加した生徒は、次のとおり。(1組) 原田翔、宮地和也、吉村雅輝、(2組) 今治儀彦、竹田太、浅海芳一、(3組) 大出悦子、(4組) 大出太介、岡野悦司、奥迫亜衣、西原貴典、箱崎鷹志、藤原康洋、(5組) 佐藤雅英、下野愛、時本達也、箱崎恵実、箱崎慎太郎、村上大真希、4月から、新社会人となって、がんばってください。

若い人たちに何か一言。自分の遠縁の子のような気がします。しかし、こちらの気持ちは通じない。クールだ。もうちょっと、しっかりとしてほしい。日本の国は、将来大丈夫かと心配になる。

因島の子どものために、大学をつくりましたとは、因島以外の地域の人には言えないが、私が自分の故郷の因島に対してもっている情熱、気持ちを理解してもらえないのが、さみしい。しっかりと勉強して、立派な大人になってほしい。歴史と伝統を大事にしないでほしい。



田熊小でコンサート 堤友彦君、障害をのりこえて、 生きるすばらしさを歌う

平成15年11月26日、田熊小学校(岩木久満校長)の体育館で、全校児童の合唱の後、「お話しとコンサート」と題して、堤恵子さんと堤友彦さんのトーク・コンサートがありました。

1歳で突然障害児に

堤友彦くんは、昭和54年、府中市で生まれ、1歳のとき2階の窓から落ちるといって大事故により、左の脳のほとんどを失う。医師より、「しゃべれない。歩けない。全盲。」

保育所・小学校に入る

入退院をくりかえし、右半身麻痺ながら歩くこともできるようになり、保育さん、地域の方、まわりに支えられ、保育所入所が実現。

「中国地方で全盲の子が、地域の小学校に入学した例はない。」と、行政から反対されたが、多くの人の支援で小学校に入学できた。以後、障害児に門戸が開かれた。

まわりの人に感謝し、その分、人のお世話をしようと、



東生口小学校をたずねて

松原幸子校長にお話を聞きました。

地域が見守る

赤崎フエリー待合所と農協には、書道、絵画、工作など子どもの作品が展示され、「○○ちゃんは、上手になった。」「○○さんこの孫やあ。」と話題にのぼり、子どもたちの成長を地域で見守っています。

今までは、午前が小学校運動会、午後から町民大会と別々であったが、昨秋には、地域の協力も得て、合同大運動会を行ない、観客も増え、子どもも張り切って活躍しました。

田熊校区陸上競技会、因北小で水泳大会など、因島の交流も増え、先生方も、瀬戸田町教育委員会管轄と因島管轄と双方の研修に出席しています。

田熊校区陸上競技会、因北小で水泳大会など、因島の交流も増え、先生方も、瀬戸田町教育委員会管轄と因島管轄と双方の研修に出席しています。

田熊校区陸上競技会、因北小で水泳大会など、因島の交流も増え、先生方も、瀬戸田町教育委員会管轄と因島管轄と双方の研修に出席しています。

瀬戸田町との連携も必要
人数が少ないため、バレー

「府中市手をつなぐ親の会」に参加、会長になり活躍した。

むごい親

4年の時、「お母ちゃん、先に帰るよ。」とうそをついて、小学校から700メートル一人で白杖を持って帰宅の訓練。途中、道の真ん中に立ちついたり、溝に転落したり、それを蔭で見守る。今、友彦くんは、「むごい親」と笑う。ひとりで安心して帰宅できるようにするまで3年かかったという。

左手でキーボードを

6年になると、初めての曲でも何度か聴けば、だいたいのコードがとれるようになった。歌詞は、まねをして歌うが、「空」「白」「雲」など、全盲の友彦君に理解できるような説明はむずかしい。

3度目で府中東高校入学

人とのつきあいの難しかった友彦君が、地域の学校に通い、友達の中で成長できた。



「高校入学を実現させる会」もでき、県教委に粘り強く交渉。みなさんのお力添えもあり受験したが、問題の代読、回答の代筆は認められず不合格。高校の校門の前で、登校する生徒に毎日挨拶していくから高校生気分を味わう。2学期から中学の教室に通い、勉強もやりなおし。点字速度も上達したが、2回目の受験も不合格。3年目で、府中東高校にやっと合格。高校生活も経験した。

音楽療法スタッフ

現在も、右半身麻痺、全活動を行なう。

複式学級

2学年で17人以上なら別の学級が編成できるが、3年・4年は少ないため、複式学級。図工や体育は、一緒にしているが、理科、社会は、教科書を互い違いに使い授業をする。算数は学年で教科書が違うため、担任と教頭が分担して教えています。

来年度は、教員定数法の計算でいくと、(2.3学年)と、(4.5学年)の変則複式学級になり、一人の先生が教えるには、学年ごとの学習指導要領に大きな違いがあり、困難が予想される。たとえば、「書き方」では、2年は硬筆、3年は毛筆が出てくる。2年は、「生活科」といって、旧来の理科と社会科が合わさつ

縦割り活動

全校生徒を各学年を超えて5つのグループに分け、グループ活動を行なう。上級生が下級生をいたわりながら、遠足や芋パーティーやクリン



5・6年生はスキー合宿

毎年、県境の三井野原スキー場に泊二日。民宿のご主人とバスの運転手さんが、指導してくれるというアットホームな雰囲気です。

縦割り活動

全校生徒を各学年を超えて5つのグループに分け、グループ活動を行なう。上級生が下級生をいたわりながら、遠足や芋パーティーやクリン

盲と障害を抱えています。高校卒業後、福山で「音楽療法スタッフ」として、ともに生きるすばらしさをキーボード弾き語りや伝えている。小学校や、保育所、施設など訪問しながら、お母さんとトーク・コンサート。友彦くんは「元気を出して、生きようよ。君の人生だから。夢は、いつか絶対かなうよ。」と私たちに歌いかける。

保護者・児童の感想

「私たちに想像もできない苦労をされたのにお母様の明るい笑顔と素直に表現する友彦さんに何か光を感じます。」

「我が子がすごい人だね。と感心していました。それから何かを学んでほしい。」

5年の岡野登華さんは、「私たちに一歩けん命がんばっている、必ずできるといふことを教えてくれたんだと思います。」と感想を書いている。

活動を行なう。

複式学級

2学年で17人以上なら別の学級が編成できるが、3年・4年は少ないため、複式学級。図工や体育は、一緒にしているが、理科、社会は、教科書を互い違いに使い授業をする。算数は学年で教科書が違うため、担任と教頭が分担して教えています。

来年度は、教員定数法の計算でいくと、(2.3学年)と、(4.5学年)の変則複式学級になり、一人の先生が教えるには、学年ごとの学習指導要領に大きな違いがあり、困難が予想される。たとえば、「書き方」では、2年は硬筆、3年は毛筆が出てくる。2年は、「生活科」といって、旧来の理科と社会科が合わさつ

縦割り活動

全校生徒を各学年を超えて5つのグループに分け、グループ活動を行なう。上級生が下級生をいたわりながら、遠足や芋パーティーやクリン

2月1日の音楽発表会

町の人も含めて400人が来校したが、「笑顔の明日をつかもうよ(堤恵子作詞、友彦演奏・歌)」を全教員で歌うと、感激で会場いっぱい拍手があつた。

「友彦君のコンサートをきっかけに、学校が一团となって明日に向かって進むようになった。」と岩木校長は話していました。

ホームページをご覧ください。
<http://www.fuchu.or.jp/~tomohiko>

吹奏楽部 定期演奏会

今年度の活動がどうなるのか心配していましたが、活動を継続することができ、部員、保護者とも喜んでいきます。11月の市制50周年の実行委員会から「地元の高校」ということで、参加の要請があり、市民会館で演奏できたのはとても貴重な経験でした。心よりお礼申し上げます。

さて、恒例の「定期演奏会」が3月21日に市民会館で開催されます。学校長より「がんばっているか？」と声をかけて頂いたり、諸先生方に励まして頂き、感謝しています。市民の方々には、ポスターの掲

示やチケットの販売でご協力いただいた、みなさんに支えられて開催できますことにお礼申し上げます。

今後「吹奏楽部」のご支援よろしく願います。

平成15年度 因島市PTA連合会研究大会開催



会長 孝 小川

2月15日(日)、芸予文化情報センターで、市内小中学校PTA会員約300名が集い、「未来に輝く心豊かでたくましい子どもの育成をめざすPTA活動」をテーマに、因島市PTA連合会研究大会が行われました。

来賓に、尾三教育事務所長興典道様をはじめ、多数の教育関係者の皆様ご出席を賜り、お礼申し上げます。

開会行事の後、永年のPTA活動功労者への表彰、特に今年度は文部科学大臣から特別功労者表彰を受賞された三庄中PTAの楠見由活さんへの表彰伝達式も行ない、楠見さんから喜びの声をいただきました。

第一部の講演では、因島市学校医師会から益田眼科小児科院長の益田裕朗先生が「子どもへの屈折異常」と題して子どもたちの目の健康についてのお話し、続いて、三庄小中PTAメンバーを中心とした「コスモスの会」によるコー



なすべきか、市内のPTA会員一堂に会し、協議でき、有意義でした。今後とも地域・学校・関係団体との連携を深め、子どもたちの幸せを願いつつ活動が続いていきたいと思います。

PTA学校開放講座 「陶芸教室」開催

2月17日(火)午後7時30分から、因島高校PTAは、学校開放講座「陶芸教室」を開いた。16名の市民やPTA会員が、伊賀宗先生の指導のもと、粘土をこね、ろくろを回し、皿、湯のみ、井など、素焼きされたあと、次回、絵付けを行う。

